春風
別海町立中春別中学校
学校だより
令和5年4月28日　発行　校長　葛迫　勝秋

教育目標：【中春っ子　未来を拓こう　みんなの笑顔】
～自らの未来に向かって、目標を高く持ち、仲間と協調しながら前向きに挑戦する子どもを育てる～

『学びから知らない自分と出会う楽しさ、喜びを知る』

校長　葛　迫　勝　秋

子どもたちは学校という社会の中で様々な学びを通して成長していきます。では、人は「学び」から何を発見するのでしょうか？それを説明するために「ジョハリの窓」と呼ばれるものを紹介します。ジョハリの窓を理解することで、チーム内の信頼関係をより強固にできます。たとえば、自分では恥ずかしいと思っていることを勇気を振り絞って相手に話すとします。すると、思いのほか共感されたり同情されたりするといった経験は、誰しも一回はあるはずです。相手の弱みを知ると、自分の弱みもさらけ出したくなります。「今まで隠していた自分」がオープンになったことで相手との距離が近くなり、信頼関係がいっそう強くなるのです。校内におけるチームワークや人間関係においても同じことがいえます。

ジョハリの窓は自分の特性や自己理解において「４つの窓」に分類されます。

1つ目の窓は「開放の窓」です。自分も他人も知っている自己のことです。「相手から○○と思われているかもしれない」という他人からの目、「自分にはこんな一面があるかもしれない」という自分の主観が一致している状態といえます。開放の窓が大きくなることで、相手に対する親近感や信頼感が高まり、コミュニケーションが円滑になります。

2つ目の窓は「秘密の窓」です。自分だけが知っていて、他人にはまだ知られていない自己のことです。わかりやすい例として「トラウマ」や「コンプレックス」があげられます。秘密の窓は小さいほど良いとされ、秘密の窓が大きいということは「隠し事が多い」ともいえるため、なかなか相手に打ち明けて話せません。秘密の窓を小さくしてありのままの自分を見せることで、「開放の窓」が大きくなり、コミュニケーションが円滑になります。

3つ目の窓は「盲点の窓」です。他人は知っているが、自分では気づいていない自己のことです。わかりやすい例として「思わぬ長所」や「思わぬ指摘」などがあげられます。ときどき「盲点だった…」という言葉を使うように、相手に言われてはじめて気づくケースが多いです。

4つ目の窓は「未知の窓」です。文字どおり、自分と他人も知らない誰からもまだ知られていない自己のことです。盲点の窓と秘密の窓を小さくして、開放の窓を大きくすると、未知の窓に気づけます。「まだ知らない自分」に気づくことで、自己成長のチャンスが訪れるのです。

学校では各教科の学習に加え、総合的な学習の時間・特別活動、さらには部活などさまざまな「学び」を経験します。こうした豊かな「学び」を通して「未知の私」と出会っていきます。今この時期にこそ「知らない自分と出会う楽しさ、喜び」を多く味わってほしいと願っています。

さて、そこまで桜の便りが届きGWを迎えますが、まずは、心とからだに安らぎを与えながらも、やってみたいことに挑戦する！そんな日々をすごしてほしいと思います。